

若手研究者コラムリレー

尾川 翔大（おがわ しょうた）



プロフィール

岐阜薬科大学 健康・スポーツ科学研究室 助教
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育・スポーツ史、スポーツ人類学

1991年 静岡県湖西市出身
2014年 東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 卒業
2016年 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科博士前期課程 修了
2019年 日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程 修了
日本体育大学スポーツ危機管理研究所助教(リサーチフェロー)を経て
2023年4月より現職

E-mail: ogawa-sho@gifu-pu.ac.jp



わたしの研究

が何なのかは学者人生が終わる ころに答えられるかもしれません...

みなさん、こんにちは！ 尾川翔大です。わたしは「どんな研究しているのか」と聞かれるといつも答えに窮します。もちろん、聞かれたときは「それなり」に答えることはできます。けれども、いまだに自分の中にしっくりくる回答が準備されていないのです。なにゆえそうになっているのかを考えてみると、いくつか思い当たる節があるのですが、一つは大学院時代の学び方に由来している気がします。

大学院時代のわたしが試みたことの一つは、最新の理論や真新しいトピックを追いかけることではなく、目の前にいる先生方の世界の眺め方に習うことでした(できませんでした)。博論はスポーツ歴史学の範疇にありますが、幸運にも、大学院時代は多分野の先生方の聲咳に接する機会を得ました。先生方の世界の眺め方に習うためには、先生方が書いたものや先生方の本棚に並んでいる本を読むことが近道ではないかと思いました。先生の論文を読めばそれについて質問できますし、同じ本を読めばより深く考えを聞くことができます。それを通じて先生方の世界の眺め方に習うことができるのではないかと考えました。

大学院の短い時間で多分野の碩学の世界の眺め方を習い続けることなどできるわけがなかったのですが、しかし、それは大学院を修了して以降、ゆっくりと混じり合いつつあるような気がしています。最近、書いてみた文章には先生方の影響が表れはじめています。それにより、自分が書いてきたものになんらかのカタチがあるような気がしてきたここ数年です(ボンヤリした言い方でスイマセン)。

たぶん、学者人生が終わるころに「わたしの研究」が何なのかにキッチリと答えることができるかもしれません。「わたしの研究はこういうことだったのか」という気づきとともに。

書いてよかったと思う論文

尾川翔大. 人類学が導き出すスポーツ集団のリーダースポーツ集団における権威者像の再考に向けた人類学的展望一. スポーツ文化研究 2: 28-47, 2024.

コラム：身体の反逆

今年度に入ってから所属先の大学の硬式野球部の選手として活動しています。指導者としてではなく、選手としてです。練習日は週に2日ほどですが、学生と一緒にノックをうけ、バッティング練習をし、選手が少ないときは試合にも出場しています。

「先生もやりましょう」と誘われて練習に参加し始め、思ったより動けたので「試合も出ませんか」ということで、いつのまにか選手としてグラウンドに立っていました。当初は体の節々が痛くなったのですが、次第に痛みが薄れるなかでかつての感覚を多少なりとも思い出し、試合に出ると楽しくなっていました。しっかり打つてのセンターオーバー、ちゃんと盗んでの盗塁など、キッチリ選手をしています。

小・中・高と8年ほど野球部に所属していましたが、もしかしたら、今のほうが打てるのではないかという気がします。というのは、10代の時よりも多少の知恵がついたので、「打てる打ち方」に接近できそうです。多分に漏れず、私も動画共有サイトで現役選手やかつての名プレイヤーから構え方やスイングの軌道を学んでいます。そして、その学んだ打ち方を練習時に試しています。時おり、「そうそう、こんなかんじ」という打ち方ができます。ですが、いざ試合になると、8年の練習によって練り上げられたスイングが姿を現します。頭で「こう打とう」と考えたことは裏腹に、身体の反逆に遭います。制度や仕組みを変えることは簡単ではありませんが、一度身に付けたスイングも付け焼刃程度の練習をしたところで簡単には変えられないようです。

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！ → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

